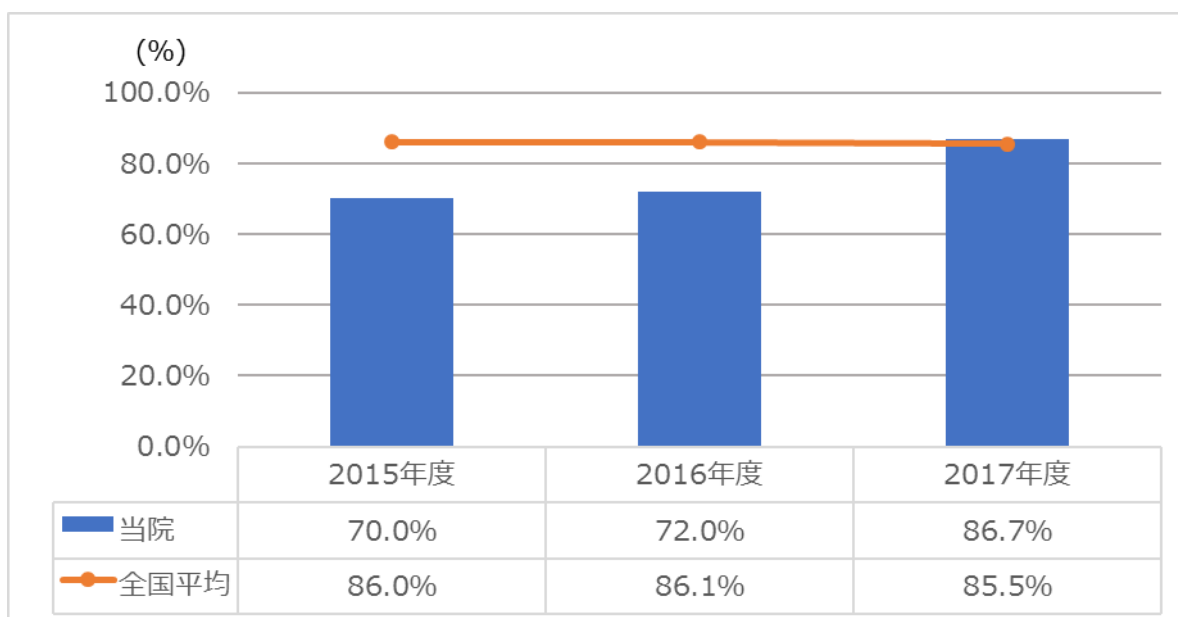


指標 1 1 急性膵炎に対する 入院 2 日以内の CT 実施割合



<定義>

|      |                                |
|------|--------------------------------|
| 分子   | 分母のうち、入院日から 2 日以内に CT が施行された症例 |
| 分母   | 急性膵炎で退院した症例                    |
| 期間   | 2015 年度～2017 年度（1 年毎に集計）       |
| 対象   | 上記期間の退院患者                      |
| 値の解釈 | 高い方が望ましい                       |

<解説>

急性膵炎においては、診断、重症度判定のため CT 検査を施行することが進められています。膵炎発症後 48 時間以内に造影 CT 検査を行い、膵臓での病変の広がり、膵炎の膵臓外への波及を評価し、重症度判定に用います。

当院では、重症膵炎にて救急搬送される場合も多く、前医にて CT 検査が施行されている場合、当院での検査は 48 時間以降となることもあります。

※ 本データは厚生労働省提出用の DPC データを基に作成されています。また、全国平均の値については、当院が参加している「医療の質と経済性に関する実態調査【京都大学大学院 QIP 事業】」における「医療の質の指標」の計測結果（事業に参加する全国の病院の平均値）を用いています。

【参考 URL】

<http://www.kch.kagoshima.jp/about/qip.html>（当院の QIP 参加について）

<http://med-econ.umin.ac.jp/QIP/CI.html>（QIP における計測結果）